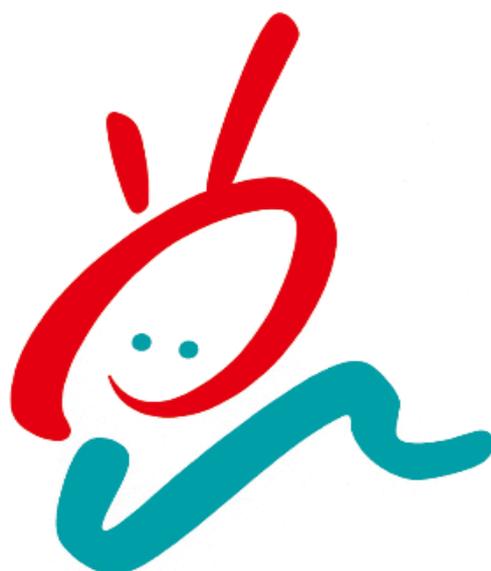


# JA道青協 ポリシーブック



---

**JA YOUTH**

北海道農協青年部協議会

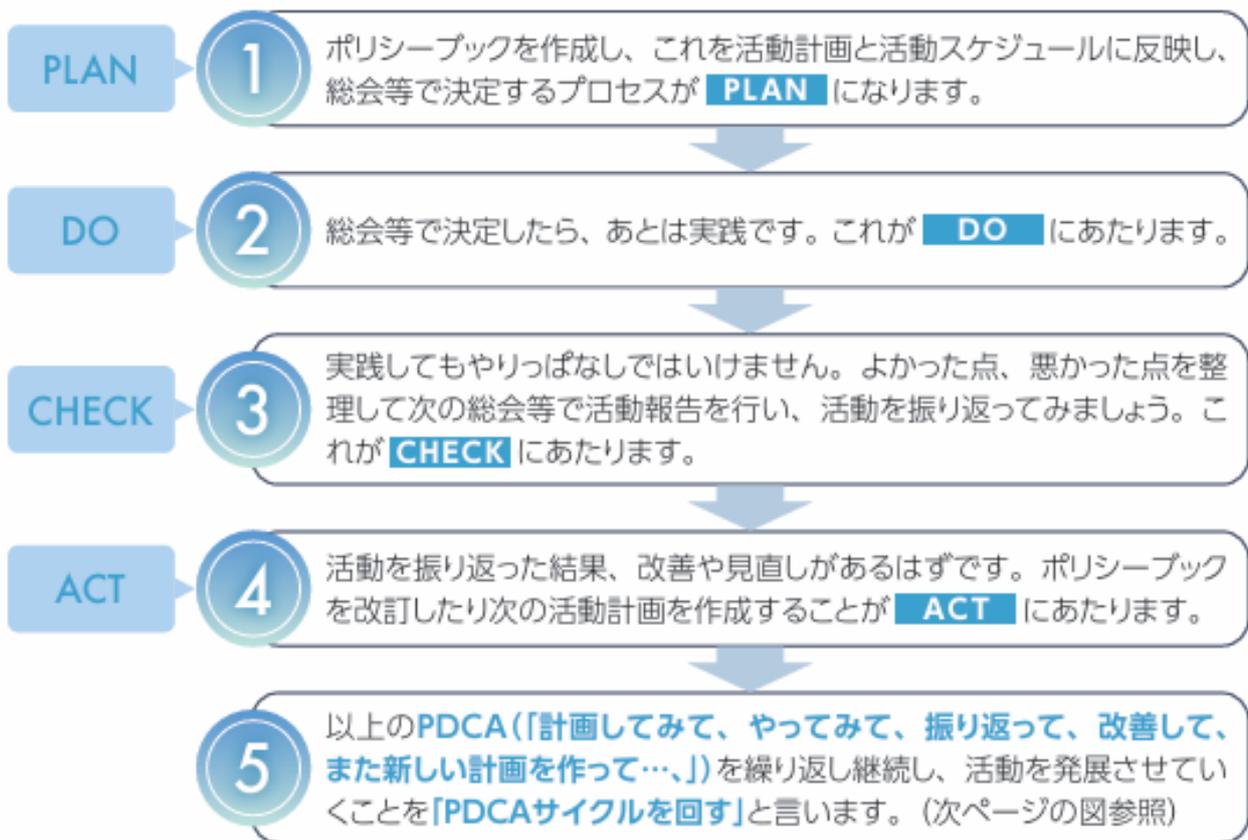
令和7年2月作成

# ポリシーブックとは？

J A全青協では、平成23年度より「**ポリシーブック**」の作成を開始しました。ポリシーブックを一言で表すと「**J A青年部の政策・方針集**」となりますが、その作成にあたっては現在の政策を出発点とするのではなく、J A青年部の盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていく上で抱えている課題や疑問点について、盟友同士で解決策を検討してとりまとめている点が特徴です。

また、そこには政策として要請することだけでなく、まず自分たちで解決に向けて努力し、取り組むことが明記されています。つまり、「**自分たちの行動目標**」と「**積み上げによる政策提案**」の両方を備えたものがJ A青年部の「**ポリシーブック**」となります。

## ポリシーブック取り組みの流れ



# 道青協として取り組むこと

## 【 基本的な考え方 】

令和6年11月20日開催の第31回JA北海道大会決議の決定を踏まえ、3カ年の中期計画を大枠として定め、北海道農協青年部協議会の取り組むべき事項として以下の項目を活動指針として実践する。

### 1. JA青年組織の強化について

次世代リーダーの育成に励み、協同組合の理解醸成、各種大会の実施により盟友の結束力を高め、青年組織として担い手の育成に取り組む。

### 2. 食農教育について

北海道農業やJA、農作物について消費者への理解醸成を目標とする。また、食農教育活動を通して「食」の大切さ、国民の命を守る農業の使命について国民との相互理解を図る。

### 3. 農政活動について

全道盟友が抱える課題を把握し、農業政策に対する国会議員への要請活動を実施する。また、農政に対する理解を深め、北海道農政連や各対策本部委員会へ積極的な参画をする。

# J A 青年組織綱領

我々 J A 青年組織は、日本農業の担い手として J A をよりどころに地域農業の振興を図り、J A 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、J A 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

## 1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

## 1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

## 1. われらは、自らが J A の事業運営に積極的に参画し、J A 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探求し、実践する。

## 1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

J A 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

## 1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈) 本綱領は、J A 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川 5 原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき J A 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである (平成 17 年 3 月 10 日制定)。

令和 6 年度ポリシーブック委員会

北海道農協青年部協議会 副会長	三角 将広
北海道農協青年部協議会 副会長	佐藤 慎哉
石狩地区農協青年部連絡協議会 会長	藤原 啓輔
空知地区農業協同組合青年連合会 会長	引頭 啓
留萌地区農協青年部協議会 会長	花田 郁哉
根室地区農協青年部連絡協議会 会長	西塚 知也